



報道解禁：令和6（2024）年9月3日（火）15：00以降

令和6年9月3日

独立行政法人日本学術振興会

第40回（令和6（2024）年）国際生物学賞の受賞者決定

アンゲリカ・ブランド博士（Dr. Angelika Brandt）（ドイツ）

独立行政法人日本学術振興会（理事長 杉野 剛）は、7月23日に国際生物学賞委員会（委員長 藤吉 好則：東京医科歯科大学特別栄誉教授）を開催し、第40回国際生物学賞の受賞者をドイツのゼンケンベルク研究所・自然史博物館 教授／フランクフルト大学 教授、アンゲリカ・ブランド博士（62歳、ドイツ）に決定しましたのでお知らせいたします。

1. 国際生物学賞について

国際生物学賞は、昭和60（1985）年に昭和天皇の御在位60年と長年にわたる生物学の御研究を記念するとともに生物学の奨励を図るため、生物学の研究において世界的に優れた業績をあげ、世界の学術の進歩に大きな貢献をした研究者に授与することを目的として設けられたものです。また、本賞の25回目を契機に、本賞の発展に寄与されている上皇陛下の長年にわたる魚類分類学（ハゼ類）の御研究を記念し、今後の生物学の更なる発展を図ることも本賞の趣旨に追加しました。

受賞者には、賞状・賞牌および賞金1千万円が贈られます。また、秋篠宮皇嗣殿下からの贈呈品があります。

2. 受賞者について（受賞者の略歴および授賞理由については別添資料を参照ください。）

アンゲリカ・ブランド博士は、1961年生まれ。1997年からドイツのゼンケンベルク研究所・自然史博物館 教授およびフランクフルト大学 教授。

今回の授賞対象分野は「系統・分類を中心とする生物学（Systematic Biology and Taxonomy）」です。ブランド博士は、等脚目を中心とした南極海および北太平洋域の深海生物を対象として、系統学や分類学等の観点から研究を行い、等脚目の新分類体系を提唱し、新たに分類群を発見、命名するなど、多くの業績をあげてきました。さらに、個人による研究が主流であった分類学において、数多くの国際研究プロジェクトを推進してきました。ブランド博士のこれまでの数々の業績は、系統・分類を中心とする生物学における重要な発展を支えるものとして高く評価されるものです。

3. 授賞式について

授賞式は、例年12月頃に挙行されておりますが、第40回授賞式の日程は後日お知らせいたします。授賞式には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席をお願いしています。

また、記念シンポジウムを12月21日（土）に京都において開催予定です。

第40回（令和6（2024）年）国際生物学賞の受賞者決定

令和6（2024）年9月3日
独立行政法人日本学術振興会

独立行政法人日本学術振興会（理事長 杉野 剛）は、7月23日に国際生物学賞委員会（委員長 藤吉 好則：東京医科歯科大学特別栄誉教授）を開催し、第40回国際生物学賞の受賞者をドイツのゼンケンベルク研究所・自然史博物館 教授／フランクフルト大学 教授 アンゲリカ・ブランド博士（62歳）に決定した。今回の授賞対象分野は「系統・分類を中心とする生物学（Systematic Biology and Taxonomy）」である。

1. 選考の経過

国際生物学賞委員会のもとに、審査委員会（委員長 寺島 一郎：日本植物学会会長／東京大学名誉教授）が設置され、国内、国外の合計1,637の関係学術機関・団体および有識者に対して推薦依頼状を送付した。これに応じて推薦された67人（被推薦候補者の重複を除いた実数は20か国・地域、54人）の候補者について、審査委員会は、5回に及ぶ会議における慎重な審議の結果、アンゲリカ・ブランド博士を受賞候補者として推薦することを決定した。

今回の決定は、この審査委員会の選考結果に基づいて行われたものである。

2. 受賞者について

氏名 アンゲリカ・ブランド博士
(Dr. Angelika Brandt)

生年月日 1961年12月6日（62歳）

国籍 ドイツ

現職 ゼンケンベルク研究所・自然史博物館 教授／
フランクフルト大学 教授

略歴

1992年 オルデンプルク大学 (Ph.D.)

1992 - 1995年 クリスティアン・アルブレヒト大学キール 博士研究員

1995 - 2017年 ハンブルク大学動物学博物館 教授／ハンブルク大学 教授

2017年 - 現在 ゼンケンベルク研究所・自然史博物館 教授／フランクフルト大学 教授

栄誉歴

1992年 アネット・バーテルト財団科学賞

2003年 - 現在 リンネ協会 フェロー

2007年 Top 10 Scientific Discoveries 2007 (タイム誌)

2007年 アドベンチャー・オブ・ザ・イヤー (ナショナル・ジオグラフィック協会)

2008年 南極研究科学委員会メダル

2022年 カルロ・ハイプ賞 (国際生物海洋学協会)



3. 授賞理由

ゼンケンベルク研究所・自然史博物館およびフランクフルト大学の教授であるアンゲリカ・ブランド博士は、深海域と極域の生物を対象とし、系統学・分類学のほか、生態学、生物地理学、進化等の研究を幅広く行っている。公表された研究成果は、321編の学術論文、12冊の書籍など507編にのぼり、これら学術論文の被引用数は10,000件を超える。

ブランド博士の深海生物の研究活動・業績は南極域において顕著である。特に、ブランド博士は13か国の約50人の科学者が参画する南極域の深海生物調査であるANDEEP (Antarctic Benthic Deep - Sea Biodiversity : colonization history and recent community patterns) プロジェクトを主導した。南極域深海の生物多様性は19世紀後半に認識され、多くの調査が行われてきた。そして南極域深海の動物相は、近隣の深海盆、あるいは大陸棚と関連するのではないかと考えられてきた。しかし極限環境での調査は困難を極めるため、科学者たちは限られたデータに頼らざるを得ず、実際にどのような生物が南極域の深海域にいるかを十分に知らずに議論せざるを得なかった。このような状況において、ブランド博士はANDEEPプロジェクトによる多数の分類群の調査を実現し、南極深海域の種多様性は従来考えられてきた以上に複雑であり、分類群によっても様々であることを初めて示した。ブランド博士の北太平洋への一連の深海探検により、100種を超える新種が発見された。さらに、これらの地域でのデジタル化の取り組みにより、アクセス可能な深海データが7倍以上に拡大した。

分類学の進展に伴い、多くの種が記載されてきた。しかし海洋、特に深海は調査が難しいために、分類学の最後のフロンティアとして残されてきた。分類学は歴史的に個人あるいは小グループによる研究が主流を占めるが、深海域のように、調査を実施するにあたって特殊な装備と技術が必要となる水域では、グループを組織したプロジェクトを立ち上げる必要がある。ブランド博士の新規性と独自性は、個人による研究が主流であった分類学において、国際共同プロジェクトを推進し、大きな成果をあげた点にある。また、ブランド博士の献身と熱意は深海研究コミュニティに大きな利益をもたらし、世界で最も調査が進んでいない生態系のひとつである深海に対する理解を大きく深めた。

このような研究業績を鑑み、ブランド博士が第40回国際生物学賞の授賞対象分野「系統・分類を中心とする生物学」の受賞者として最もふさわしいと判断し、授賞を決定した。

4. 授賞式

授賞式は、12月頃に日本学士院（東京都台東区上野公園7-32）において実施予定である。

授賞式には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席をお願いしている。



第 39 回（令和 5 年）国際生物学賞 授賞式

5. 記念シンポジウム

ブランド博士の受賞を記念して、京都大学および日本学術振興会との共催により、記念シンポジウムを令和 6（2024）年 12 月 21 日（土）に京都において開催する予定である。受賞者の他、系統・分類を中心とする生物学分野において先駆的な研究を進めている国内外の研究者が最新の研究成果について講演を行う予定である。

6. 受賞者の研究業績および代表的著作

研究業績

ブランド博士はこれまでに、日本海溝、アリューシャン海溝、千島・カムチャツカ海溝、プエルトリコ海溝などの世界の様々な深海域で実施された 31 回の調査船による国際的な海洋調査に参画し、多くの研究業績をあげている。ブランド博士の研究活動と業績は南極域の深海生物において顕著であり、特筆すべきは、13 か国の約 50 人の科学者が参画する南極域の深海生物調査である ANDEEP プロジェクトを主導したことである。ANDEEP プロジェクトではウェッデル海とその近隣の水深 748 - 6,348 m で 3 回の調査（ANDEEP I - III）が実施され、採集された標本から多くの新知見が得られた。例えば、ブランド博士が専門とする等脚目については 13,046 個体の標本が採集され、これらは 674 種に分類された。このうち 89 種は既知種であったが、585 種はこの海域からの初記録種で、そのうちの 87% は南極に固有の新種であった。また、これらの等脚目の標本は本群を含むフクロエビ上目の標本の 35% を占めた。多毛類は 200 種以上が採集され、81 種が未知の種であった。海綿動物は 76 種で、そのうち 17 種は新種で、37 種は南極初記録種であった。このように、ブランド博士は ANDEEP プロジェクトの調査結果から、南極深海域は生物多様性がこれまで知られていた以上に極めて高いことを明らかにし、深海生物相は南極に向かって種多様性が低くなるという従来の考えに疑問を呈する結果となった。

他の深海域の調査においては、例えば北西太平洋（北緯 30 - 60 度、東経 120 - 180 度）の動物相に関する業績がある。この深海調査では 1,723 種が採集されている。ブランド博士はこの海域の深海動物相の図録を編纂し、深海性の 503 の分類群に属する 2,503 の分布記録を示すことで、この海域の深海生物の分布と種多様性に関する情報を提供した。このブランド博士の国際チームの研究により、標本を採集した海域の深海動物相に関する知見は 6 倍から 20 倍に拡大した。この情報そのものも生物学的に非常に重要であるが、生物多様性の保全、およびその持続可能な利用と開発のための基礎となるため、その潜在的価値も同様に重要である。

等脚目の系統分類学は、ブランド博士が対象とする主要な研究分野の一つであり、学位論文にも本群の系統分類学が含まれている。ブランド博士は等脚目の系統類縁関係を形態形質に基づいて包括的に推定し、得られた類縁関係に基づき、本目を 7 亜目、すなわちワラジムシ亜目、Tainisopidea 亜目、Phoratopidea 亜目、ウオノエ亜目、キクイムシ亜目、ヘラムシ亜目およびコツブムシ亜目に分割する新たな分類体系を提唱している。このうち、キクイムシ亜目、Tainisopidea 亜目および Phoratopidea 亜目はブランド博士が新たに命名した分類群で、後 2 者は従来の有扇亜目が分類群として不適切であることが判明したため、これを分割することで新設された亜目である。ウオノエ亜目に含まれる Protognathiidae、およびコツブムシ亜目に含まれる Basserolidae 科と Schweglerellidae 科はブランド博士が新たに命名した分類群である。また等脚目に関しては、ブランド博士は 22 の新属と 100 以上の新種も発表している。ブランド博士の系統解析の結果から、従来は亜目として認められていたウミナナフシ亜目は上科に降格され、ヤドリムシ亜目はウオノエ亜目内の二つの上科に分割・降格された。

ブランド博士のごく最近の論文の一つ（令和 6（2024）年 5 月出版）でも等脚目が研究されている。ここでは日本の海洋研究開発機構（JAMSTEC）の調査船「白鳳丸」を用いて千島・カムチャツカ海溝と日本海溝で実施されたプランクトンネットを装備した底曳網調査で採集された等脚目に焦点を当てている。この調査では 28 地点から合計 2,656 個体が採集され、Munnopsidae 科が最多の 1,123 個体で、他の 4 科で 100 個体を超えていたことなど、この海域における本群の種多様性に関する新知見を得るとともに、底曳網調査におけるプランクトンネットの有効性を示した。

このようにブランド博士は、35 年以上にわたり一貫して等脚目を中心とした南極海などの深海生物を対象として系統学や分類学等の観点から研究を行い、国際生物学賞にふさわしい多くの業績をあげている。

代表的な論文および著書

1. **Brandt, A.**, Chen, C., Tandberg, A. H. S., Miguez-Salas, O. and Sigwart, J. D. (2023) Complex sublinear burrows in the deep sea may be constructed by amphipods. *Ecology and Evolution*, 13: e9867. <https://doi.org/10.1002/ece3.9867>
2. Cordier, T., Angeles, I.B., Henry, N., Lejzerowicz, F., Berney, C., Morard, R., **Brandt, A.**, Cambon-Bonavita, M.-A., GuidiL., Lombard, F., Martinez Arbizu, P., Massana, R., Orejas, C., Poulain, J., Smith, C.R., Wincker, P., Arnaud-Haond, S., Gooday, A.J., de Vargas, C. and Pawlowski, J. (2022) Patterns of eukaryotic diversity from the surface to the deep-ocean sediment. *Science Advances*, 8: eabj9309. doi: 10.1126/sciadv.abj9309
3. Simões, M., Saeedi, H., Cobos, M.E. and **Brandt, A.** (2021) Conservative climate-matching estimations reveal non-uniform directional shift between depth zones of marine Crustacea fauna. *Climatic Change*, 168: 31. <https://doi.org/10.1007/s10584-021-03240-8>
4. Colaço, A., **Brandt, A.**, Hilario, A., Lourenço, N., Narayanaswamy, B.E., Priede, I.G., Tuhumwire, J.T., Vecchione, M. and Watanabe, H. (2021) Chapter 70: Ridges, plateaux and trenches. In: *World Ocean Assessment II*, vol. I, United Nations, pp. 495–512
5. Brix, S., Held, C., Kaiser, S., Jennings, R.M., Driskell, A. and **Brandt, A.** (2021) Evolution and phylogeny of the deep-sea isopod families Desmosomatidae Sars, 1897 and Nannoniscidae

- Hansen, 1916 (Isopoda: Asellota). *Organisms Diversity and Evolution*, 21: 691–717.
6. Riehl, T., Wölfl, A.-C., Augustin, N., Devey, C.W. and **Brandt, A.** (2020) Discovery of widely available abyssal rock patches reveals overlooked habitat type and prompts rethinking deep-sea biodiversity. *PNAS*, 117: 15450–15459. www.pnas.org/cgi/doi/10.1073/pnas.1920706117; <https://www.pnas.org/lookup/suppl/doi:10.1073/pnas.1920706117/-/DCSupplemental>
 7. Ingels, J., Aronson, R., Smith, C., Baco, A., Bik, H., Blake, J., **Brandt, A.**, Cape, M., DeMaster, D., Dolan, E., Domack, E., Fire, S., Geisz, H., Gigliotti, M., Griffiths, H., Halanych, K., Havermans, C., Huettmann, F., Ishman, S., Kranz, S., Leventer, A., Mahon, A., McClintock, J., McCormick, M., Mitchell, B., Murray, A., Peck, L., Rogers, Alex; R., Shoplock, B., Smith, K., Steffel, B., Stukel, M., Sweetman, A., Taylor, M., Thurber, A., Truffer, M., Van de Putte, A., Vanreusel, A. and Zamora-Duran, M. (2020) Antarctic ecosystem responses following ice-shelf collapse and iceberg calving: science review and future research. *WIREs Climate Change*, 12: 1–28. <https://doi.org/10.1002/wcc.682>
 8. Di Franco, D., Linse, K., Griffiths, H.J., Haas, C., Saeedi, H. and **Brandt, A.** (2020) Abundance and distributional patterns of benthic peracarid crustaceans from the Atlantic sector of the Southern Ocean and Weddell Sea. *Frontiers in Marine Science*, 7: 554663. doi: 10.3389/fmars.2020.554663
 9. **Brandt, A.**, Brix, S., Malyutina, M.V. and Riehl, T. (eds.) (2020) Biodiversity and biogeography of the abyssal and hadal Kuril-Kamchatka Trench and adjacent NW Pacific deep-sea regions. (KuramBio II Volume) *Progress in Oceanography*. 672 pages, 49 articles.
 10. Saeedi, H. and **Brandt, A.** (2020) Biogeographic atlas of the deep NW Pacific fauna. Advanced books. Pensoft Publisher; Sofia, Bulgaria; appr. 528 pages. <https://ab.pensoft.net/book/51315/>
 11. Saeedi, H., Simões, M. and **Brandt, A.** (2020) Biodiversity and distribution patterns of deep-sea fauna along the temperate NW Pacific. *Progress in Oceanography*, 183: 1–12. <https://doi.org/10.1016/j.pocean.2020.102296>
 12. Saeedi, H., Costello, M.J., Warren, D. and **Brandt, A.** (2019) Latitudinal and bathymetrical species richness in the NW Pacific and Arctic Ocean. *Nature Scientific Reports*, 2019; 9:9303, 1–10. | <https://doi.org/10.1038/s41598-019-45813-9>
 13. Saeedi, H., Simões, M. and **Brandt, A.** (2019) Endemicity and community composition of marine species along the NW Pacific and adjacent Arctic Ocean. *Progress in Oceanography*, 178: 1–11. <https://doi.org/10.1016/j.pocean.2019.102199>
 14. **Brandt, A.**, Alalykina, I., Brix, S., Brenke, N., Błażewicz, M., Golovan, O., Heitland, N., Hrinko, A.M., Jażdżewska, A.M., Jeskulke, K., Kamenev, G., Lavrenteva, A., Malyutina, M., Riehl, T. and Lins, L. (2019) Depth zonation of Northwest Pacific deep-sea macrofauna. *Progress in Oceanography*, 176: 1–10. <https://doi.org/10.1016/j.pocean.2019.102131>
 15. Bober S., Riehl T., Henne S. and **Brandt, A.** (2018) New Macrostylidae (Crustacea, Isopoda) from the abyssal Northwest Pacific Basin described by means of integrative taxonomy with a reference to geographic barriers in the abyssal deep sea. *Zoological Journal of the Linnean Society*, 182: 549–603. <https://academic.oup.com/zoolinnea/article/182/3/549/4604647>

16. Kennicutt II, M. C., Chown, S. L., Cassano, J. J., Liggett, D., Massom, R., Peck, L. S., Rintoul, S. R., Storey, J., W. V., Vaughn, D. G., Wilson, T. J., Sutherland, W. J., Allison, I., Ayton, J., Badhe, R., Baeseman, J., Barrett, P. J., Bell, R. E., Bertler, N., Bo, S., **Brandt, A.**, Bromwich, D., Cary, C., Clark, M. S., Convey, P., Costa, E. S., Cowan, D., DeConto, R., Dunbar, R., Elfring, C., Escutia, C., Francis, J., Fricker, H. A., Fukuchi, M., Gilbert, N., Gutt, J., Havermans, C., Hik, D., Hosie, G., Jones, C., Kim, Y., Le Maho, Y., Lee, S., Leppe, M., Leichenkova, G., Li, X., Lipenkov, V., Lochte, K., López-Martínez, J., Lüdecke, C., Lyons, W. B., Marensi, S., Miller, H., Morozova, P., Naish, T., Nayak, S., Ravindra, R., Retamales, J., Ricci, C. A., Rogan-Finnemore, M., Ropert-Coudert, Y., Samah, A. A., Sanson, L., Scambos, T., Schloss, I., Shiraishia, K., Siegert, M. A., Simões, J., Sparrow, M. D., Storey, B., Wall, D. H., Walsh, J. C., Wilson, G., Winter, J.-G., Xavier, J. C. and Yang, H. (2014) Six priorities for Antarctic science (and supplementary information). *Nature*, 512: 23–25. doi:10.1038/512023a (all scientists are co-signatories in this COMMENT paper).
17. Connolly, S.R., MacNeil, M.A., Caley, M.J., Knowlton, N., Cripps, E., Hisano, M., Thibaut, L.M., Bhattacharya, B.D., Benedetti-Cecchi, L., Brainard, R.E., **Brandt, A.**, Bulleri, F., Ellingsen, K.E., Kaiser, S., Kröncke, I., Linse, K., Maggi, E., O'Hara, T.D., Plaisance, L., Poore, G.C.B, Sarkar, S.K., Satpathy, K.K., Schückel, U., Williams, A. and Wilson, R.S. (2014) Commonness and rarity in the marine biosphere. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 111: 8524–8529. www.pnas.org/cgi/doi/10.1073/pnas.1406664111
18. Constable, A.J., Melbourne-Thomas, J., Corney, S.P., Arrigo, K.R., Barbraud, C., Barnes, D.K.A., Bindoff, N.L., Boyd, P.W., **Brandt, A.**, Costa, D.P., Davidson, A.T., Ducklow, H.W., Emmerson, L., Fukuchi, M., Gutt, J., Hindell, M.A., Hofman, H.E., Hosie, G.W., Iida, T., Jacob, S., Johnston, N.M., Kawaguchi, S., Koubbi, P., Lea, M.-A., Makhado, A., Massom, R.A., Meiners, K., Meredith, M.P., Murphy, E.J., Nicol, S., Richerson, K., Riddle, M.J., Rintoul, S.R., Smith Jr., W.O., Southwell, C., Stark, J.S., Sumner, M., Swadling, K.M., Takahashi, K.T., Trathan, P.N., Welsford, D.C., Weimerskirch, H., Westwood, K.J., Wienecke, B.C., Wolf-Gladrow, D., Wright, S.W., Xavier, J.C. and Ziegler, P. (2014) Climate change and Southern Ocean ecosystems I: How changes in physical habitats directly affect marine biota. *Global Change Biology*, 20: 1–22. doi: 10.1111/gcb.12623
19. **Brandt, A.**, Gooday, A.J., Brix, S.B., Brökeland, W., Cedhagen, T., Choudhury, M., Cornelius, N., Danis, B., De Mesel, I., Diaz, R.J., Gillan, D.C., Ebbe, B., Howe, J., Janussen D., Kaiser, S., Linse, K., Malyutina, M., Brandao, S., Pawlowski, J. and Raupach, M. (2007) The Southern Ocean deep sea: first insights into biodiversity and biogeography. *Nature*, 447: 307–311.
20. **Brandt, A.** and Poore, G. (2003) Higher classification of flabelliferan and related Isopoda based on a reappraisal of relationships. *Invertebrate Systematics*, 17: 893–923.

<参考>

○ 国際生物学賞 (International Prize for Biology)

国際生物学賞は、昭和 60 (1985) 年に昭和天皇の御在位 60 年と長年にわたる生物学の御研究を記念するとともに生物学の奨励を図るため、生物学の研究において世界的に優れた業績をあげ、世界の学術の進歩に大きな貢献をした研究者に授与することを目的として設けられたものである。また、本賞の 25 回目を契機に、本賞の発展に寄与されている上皇陛下の長年にわたる魚類分類学 (ハゼ類) の御研究を記念し、今後の生物学の更なる発展を図ることも本賞の趣旨に追加した。

受賞者には、国際生物学賞 (賞状、賞牌および賞金 1 千万円) を授与する。

○ 昭和天皇の生物学御研究と国際生物学賞賞牌

昭和天皇は、長年にわたり相模湾において生物学的調査をお続けになられたが、その間、腔腸動物・ヒドロ虫類に属するカゴメウミヒドラ科 2 種、即ちカゴメウミヒドラとキセルカゴメウミヒドラの標本を御採集になった。このうち、後者のキセルカゴメウミヒドラについては新属新種として御記載になった。昭和天皇は、これらの種の外部形態、内部形態、生活環、分類上の位置などについて、くわしく御研究になり、それによって本科についての知見が著しく増大した。

これらの種は、いずれも扇状の群体を形成し、枝は何度も分岐し、所々で枝の一部が融合連結している。本科、とくにキセルカゴメウミヒドラの群体の一部がメダル上に図案化されている。

地金は黒四分一 (銅・銀・金の合金) という日本独自の銅合金を用い、文様は、幅の広い部分は 22 金、狭い部分は純金の象嵌で表している。デザインは、吉田左源二東京芸術大学名誉教授によるものである。



昭和天皇が相模湾で御採集になり、新属新種として命名記載された有鞘類のキセルカゴメウミヒドラ



国際生物学賞 賞牌

デザイン：吉田 左源二

(東京芸術大学名誉教授)

制作：飯野 一朗

(東京芸術大学名誉教授)

○これまでの受賞者

- 第1回 (昭和60(1985)年、授賞分野は「系統・分類学を中心とする生物学」)
エドレッド・ジョン・ヘンリー・コーナー博士(英国)
ケンブリッジ大学名誉教授
- 第2回 (昭和61(1986)年、授賞分野は「系統・分類学を中心とする生物学」)
ピーター・ハミルトン・レーブン博士(米国)
ミズーリ植物園長
- 第3回 (昭和62(1987)年、授賞分野は「発生生物学」)
ジョン・バートランド・ガードン博士(英国)
ケンブリッジ大学教授
- 第4回 (昭和63(1988)年、授賞分野は「集団生物学」)
木村 資生博士(日本)
国立遺伝学研究所名誉教授
- 第5回 (平成元(1989)年、授賞分野は「海洋生物学」)
エリック・ジェームズ・デントン博士(英国)
英国海洋生物学協会研究所(プリマス)元所長
- 第6回 (平成2(1990)年、授賞分野は「行動生物学」)
マサカズ・コニシ博士(米国)
カリフォルニア工科大学教授
- 第7回 (平成3(1991)年、授賞分野は「植物を中心とする機能生物学」)
マーシャル・デヴィッドソン・ハッチ博士(オーストラリア)
オーストラリア連邦科学産業研究庁主任研究員
- 第8回 (平成4(1992)年、授賞分野は「比較生理学」)
クヌト・シュミットニールセン博士(米国)
デューク大学教授
- 第9回 (平成5(1993)年、授賞分野は「生態学」)
エドワード・オズボーン・ウィルソン博士(米国)
ハーバード大学教授
- 第10回 (平成6(1994)年、授賞分野は「系統・分類を中心とする生物学」)
エルンスト・マイア博士(米国)
ハーバード大学名誉教授
- 第11回 (平成7(1995)年、授賞分野は「細胞生物学」)
イアン・リード・ギボンス博士(英国)
ハワイ大学教授
- 第12回 (平成8(1996)年、授賞分野は「生殖の生物学」)
柳町 隆造博士(日本)
ハワイ大学教授
- 第13回 (平成9(1997)年、授賞分野は「植物科学」)
エリオット・マーチン・マイエロヴィツ博士(米国)
カリフォルニア工科大学教授
- 第14回 (平成10(1998)年、授賞分野は「多様性の生物学」)
オットー・トーマス・ソルブリーグ博士(米国)
ハーバード大学教授
- 第15回 (平成11(1999)年、授賞分野は「動物生理学」)
江橋 節郎博士(日本)
日本学士院第2部部長、東京大学名誉教授、岡崎国立共同研究機構生理学研究所名誉教授
- 第16回 (平成12(2000)年、授賞分野は「発生生物学」)
シーモア・ベンザー博士(米国)
カリフォルニア工科大学教授

- 第 17 回 (平成 13 (2001) 年、授賞分野は「古生物学」)
ハリー・ブラックモア・ウィットントン博士 (英国)
ケンブリッジ大学名誉教授
- 第 18 回 (平成 14 (2002) 年、授賞分野は「進化生物学」)
根井 正利博士 (米国)
ペンシルベニア州立大学教授
- 第 19 回 (平成 15 (2003) 年、授賞分野は「細胞生物学」)
井上 信也博士 (米国)
ウッズホール海洋生物学研究所勲功科学者
- 第 20 回 (平成 16 (2004) 年、授賞分野は「系統・分類を中心とする生物学」)
トーマス・キャバリエースミス博士 (英国・カナダ)
オックスフォード大学教授
- 第 21 回 (平成 17 (2005) 年、授賞分野は「かたちの生物学」)
ナムーハイ・チュア博士 (シンガポール)
ロックフェラー大学教授
- 第 22 回 (平成 18 (2006) 年、授賞分野は「時間生物学」)
サージ・ダアン博士 (オランダ王国)
グローニンゲン大学教授
- 第 23 回 (平成 19 (2007) 年、授賞分野は、「遺伝学」)
デビッド・スウェンソン・ホグネス博士 (米国)
スタンフォード大学名誉教授
- 第 24 回 (平成 20 (2008) 年、授賞分野は、「生態学」)
ジョージ・デイビット・ティルマン博士 (米国)
ミネソタ大学教授
- 第 25 回 (平成 21 (2009) 年、授賞分野は、「感覚の生物学」)
ウインスロー・ラッセル・ブリッグス博士 (米国)
カーネギー研究所植物学部門名誉部門長
- 第 26 回 (平成 22 (2010) 年、授賞分野は「共生の生物学」)
ナンシー・アン・モラーン博士 (米国)
イエール大学教授
- 第 27 回 (平成 23 (2011) 年、授賞分野は「発生生物学」)
エリック・ハリス・デヴィッドソン博士 (米国)
カリフォルニア工科大学教授
- 第 28 回 (平成 24 (2012) 年、授賞分野は「神経生物学」)
ジョセフ・アルトマン博士 (米国)
パデュー大学名誉教授
- 第 29 回 (平成 25 (2013) 年、授賞分野は「進化生物学」)
ジョセフ・フェルゼンシュタイン博士 (米国)
ワシントン大学教授
- 第 30 回 (平成 26 (2014) 年、授賞分野は「系統・分類を中心とする生物学」)
ピーター・クレイン博士 (英国)
イエール大学教授
- 第 31 回 (平成 27 (2015) 年、授賞分野は「細胞生物学」)
大隅 良典博士 (日本)
東京工業大学フロンティア研究機構名誉教授
- 第 32 回 (平成 28 (2016) 年、授賞分野は「多様性の生物学」)
スティーブン・フィリップ・ハッベル博士 (米国)
カリフォルニア大学ロサンゼルス校卓越教授
- 第 33 回 (平成 29 (2017) 年、授賞分野は「海洋生物学」)
リタ・ロッシ・コルウェル博士 (米国)
メリーランド大学特別名誉教授、ジョンズホプキンス大学特別名誉教授

- 第 34 回 (平成 30 年 (2018) 年、授賞分野は「古生物学」)
アンドリュー・ハーバート・ノール博士 (米国)
ハーバード大学フィッシャー記念教授
- 第 35 回 (令和元 (2019) 年、授賞分野は「昆虫の生物学」)
ナオミ・エレン・ピアス博士 (米国)
ハーバード大学ヘッセル教授
- 第 36 回 (令和 2 (2020) 年、授賞分野は「環境応答の生物学」)
篠崎 一雄博士 (日本)
理化学研究所環境資源科学研究センター特別顧問
- 第 37 回 (令和 3 (2021) 年、授賞分野は「ヒト進化の生物学」)
ティモシー・ダグラス・ホワイト博士 (米国)
カリフォルニア大学バークレー校統合生物学教授
- 第 38 回 (令和 4 (2022) 年、授賞分野は「魚の生物学」)
塚本 勝巳博士 (日本)
東京大学名誉教授
- 第 39 回 (令和 5 (2023) 年、授賞分野は「ゲノム生物学」)
リチャード・ダービン博士 (英国)
ケンブリッジ大学遺伝学部門アル・キンディー教授